

令和5年 下半期 大和商工会 小規模事業者景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 大和商工会管内小規模事業者
イ 調査企業数 100 事業所
ウ 回答企業数 99 事業所
(回答率 99.0%)

(2) 調査対象期間

- 令和5年7月～令和5年12月
(調査時点 令和6年1月1日)

(3) 調査方法

- 職員による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	12	12.0%	11	11.1%
建設業	31	31.0%	31	31.3%
卸・小売業	24	24.0%	24	24.2%
飲食・宿泊業	16	16.0%	16	16.2%
サービス業	17	17.0%	17	17.2%
合計	100	100.0%	99	100.0%

※ 本報告書におけるDI値は、(増加件数×1 + 不変件数×0.5) ÷ 回答総数の百分率

2. 地域内産業全体の景況概要

令和5年上半期と比較すると、コロナが2類から5類に移行したことから売上高・採算性が回復したことにより景況判断は好転した。特に、飲食・宿泊業の好転が目につく。しかし、業種問わず仕入単価は上昇し、製造業と建設業を除いて販売価格に転嫁できないでいる。さらに、エネルギー価格の高騰が営業利益を圧迫している状況があり、予断を許さない状況である。

【後継者の状況】

製造業72.7%、建設業67.7%、卸・小売業91.7%、飲食・宿泊業81.3%、サービス業76.5%の事業所で後継者なしと回答

後継者 あり	22事業所	22.2%	(令和5年上半期：25.0%)
後継者 なし	77事業所	77.8%	(令和5年上半期：75.0%)

【売上高】

前年同期比は29.3%の事業所で減少。前期比は27.3%の事業所で減少。今後の見通しは30.3%の事業所で減少予測である。

前年同期比

増加	不変	減少
30	40	29

DI値 50.51

前期比

増加	不変	減少
30	42	27

DI値 51.52

今後の見通し

増加	不変	減少
16	53	30

DI値 42.93

【採算】

前年同期比は29.3%の事業所で悪化。前期比は26.3%の事業所で悪化。今後の見通しは25.3%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
18	52	29

DI値 44.44

前期比

好転	不変	悪化
23	50	26

DI値 48.48

今後の見通し

好転	不変	悪化
13	61	25

DI値 43.94

【仕入単価】

前年同期比80.8%の事業所で上昇。前期比は71.7%の事業所で上昇。今後の見通しは59.6%の事業所で上昇予測である。

前年同期比

上昇	不変	低下
80	19	0

DI値 90.40

前期比

上昇	不変	低下
71	28	0

DI値 85.86

今後の見通し

上昇	不変	低下
59	40	0

DI値 79.80

【販売(客)単価】

前年同期比30.3%の事業所で増加。前期比は23.2%の事業所で増加。今後の見通しは17.2%の事業所で不変予測である。

前年同期比

上昇	不変	低下
30	57	12

DI値 59.09

前期比

上昇	不変	低下
23	66	10

DI値 56.57

今後の見通し

上昇	不変	低下
17	72	10

DI値 53.54

【資金繰り】

前年同期比14.1%の事業所で悪化。前期比は12.1%の事業所で悪化。今後の見通しは13.1%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
8	77	14

DI値 46.97

前期比

好転	不変	悪化
10	77	12

DI値 48.99

今後の見通し

好転	不変	悪化
6	80	13

DI値 46.46

【雇用動向】

前年同期比16.2%の事業所で不足。前期比は15.2%の事業所で不足。今後の見通しは17.2%の事業所で不足予測である。

前年同期比

過剰	適正	不足
1	82	16

DI値 42.42

前期比

過剰	適正	不足
1	83	15

DI値 42.93

今後の見通し

過剰	適正	不足
3	79	17

DI値 42.93

【景況判断】

前年同期比29.3%の事業所で悪化。前期比は23.2%の事業所で悪化。今後の見通しは30.3%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
22	48	29

DI値 46.46

前期比

好転	不変	悪化
21	55	23

DI値 48.99

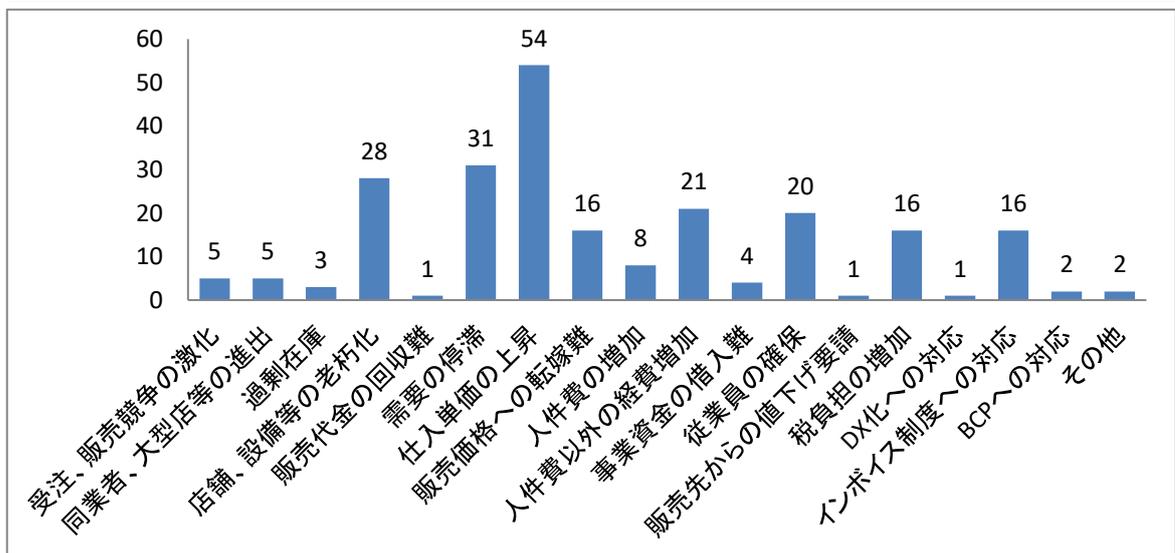
今後の見通し

好転	不変	悪化
11	58	30

DI値 40.40

【経営上の問題点】

1番目の問題点は「仕入単価の上昇」、2番目の問題点は「需要の停滞」、3番目の問題点は「店舗、設備等の老朽化」となっている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

今期の製造業の景況は、「売上DI」は前年同期比40.9、前期比36.4、今後の見通し54.5。「採算性DI」は前年同期比31.8、前期比31.8、今後の見通し59.1。「資金繰りDI」は前年同期比45.5、前期比40.9、今後の見通し40.9。「景況判断DI」は前年同期比36.4、前期比31.8、今後の見通し54.5であった。「雇用動向DI」は前年同期比45.5、前期比45.5、今後の見通し45.5と若干労働力不足である。「仕入単価DI」は前年同期比86.4、前期比81.8と上昇、今後の見通しも63.6と若干上昇。「販売単価DI」は前年同期比63.6・前期比63.6・今後の見通し50.0。経営上の問題点1位「仕入単価の上昇」2位「店舗、設備等の老朽化」「販売価格への転嫁難」「人件費の増加」「人件費以外の経費増加」「税負担の増加」と多岐となっている。

(2) 建設業

今期の建設業の景況は、「売上DI」は前年同期比58.1、前期比64.5、今後の見通し40.3。「採算性DI」は前年同期比53.2、前期比67.7、今後の見通し41.9。「資金繰りDI」は前年同期比48.4、前期比56.5、今後の見通し48.4。「景況判断DI」は前年同期比50.0、前期比58.1、今後の見通し40.3であった。「雇用動向DI」は前年同期比40.3、前期比41.9、今後の見通し40.3と若干労働力不足である。「仕入単価DI」は前年同期比88.7、前期比80.6、今後の見通し75.8と上昇。「販売単価DI」は前年同期比64.5、前期比61.3、今後の見通し56.5。経営上の問題点1位は「仕入単価の上昇」2位「従業員の確保」3位「需要の停滞」となっている。

(3) 卸・小売業

今期の卸小売業の景況は、「売上DI」は前年同期比27.1、前期比33.3、今後の見通し29.2。「採算性DI」は前年同期比25.0、前期比31.2、今後の見通し31.2。「資金繰りDI」は前年同期比35.4、前期比39.6、今後の見通し37.5。「景況判断DI」は前年同期比25.0、前期比37.5、今後の見通し29.2であった。「雇用動向DI」は前年同期比43.8、前期比43.8、今後の見通し43.8と若干労働力不足である。「仕入単価DI」は前年同期比97.9、前期比95.8、今後の見通し95.8と上昇に歯止めが掛らない。「販売単価DI」は前年同期比39.6、前期比39.6、今後の見通し43.8。経営上の問題点1位は「仕入単価の上昇」2位「需要の停滞」3位「税負担の増加」となっている。

(4) 飲食・宿泊業

今期の飲食・宿泊業の景況は、「売上DI」は前年同期比78.1、前期比68.8、今後の見通し65.6。「採算性DI」は前年同期比65.6、前期比56.3、今後の見通し59.4。「資金繰りDI」は前年同期比56.3、前期比50.0、今後の見通し53.1。「景況判断DI」は前年同期比71.9、前期比65.6、今後の見通し53.1であった。「雇用動向DI」は前年同期比・前期比・今後の見通しともすべて40.6と若干労働力不足。「仕入単価DI」は前年同期比93.8、前期比96.9、今後の見通し90.6と上昇に歯止めが掛らない。「販売単価DI」は前年同期比68.8・前期比62.5・今後の見通し62.5。経営上の問題点1位は「仕入単価の上昇」2位「店舗、設備等の老朽化」3位「販売価格への転換難」「人件費以外の経費増加」「インボイス制度への対応」となっている。

(5) サービス業

今期のサービス業の景況は、「売上DI」は前年同期比50.5、前期比47.1、今後の見通し38.2。「採算性DI」は前年同期比44.1、前期比41.2、今後の見通し41.2。「資金繰りDI」は前年同期比52.9、前期比52.9、今後の見通し47.1。「景況判断DI」は前年同期比52.9、前期比44.1、今後の見通し35.3であった。「雇用動向DI」は前年同期比44.1・前期比44.1・今後の見通し47.1で若干労働力不足。「仕入単価DI」は前年同期比82.4・前期比73.5・今後の見通し64.7。「販売単価DI」は前年同期比64.7、前期比61.8、今後の見通し55.9としている。経営上の問題点1位は「店舗、設備等の老朽化」2位「仕入単価の上昇」3位「需要の停滞」「人件費以外の経費増加」となっている。

